令和４年 沖縄県入域観光客統計概況

県文化観光スポーツ部
観光政策課発表

前年比88.9％増の569万7800人

沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課がこのほど公表した令和４年（暦年）の沖縄県入域観光客数は５６９万７８００人だった。前年比２６８万１千人増、率にして88・９％増と、増加数は過去最多、増加率は過去２番目に高かった。ただ、コロナ禍前の令和元年比は４４６万６１００人減、43・９％減にとどまる。

同県では増加の要因として①新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限のない状況が４月以降継続していること②国内航空路線の運休・減便数が減少、解消されていること③10月から全国旅行支援が実施され、需要喚起がなされたこと④海外から日本への水際対策が大幅に緩和され、海外航空路線で運航が順次再開されていること―を挙げる。

入域観光客数のうち、国内客は５６５万１００人で、前年比２６３万３３００人増、率にして87・３％の増加となった。

令和3年11月以降、段階的に経済活動が再開され、旅行需要が徐々に回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大などの影響により1月から2月にかけて「まん延防止等重点措置」が適用。

ただ、４月以降、行動制限がない状態が続いたこと、また10月から全国旅行支援が実施されたことなどから、通年で前年を上回った。

10月以降はコロナ禍前の令和元年同月の水準を上回った。「コロナ禍で抑えられていた旅行マインドが、行動制限がない状況となったことにより高揚したこと、また水際対策の影響により海外から沖縄への方面変更が生じたことなどが影響したものと考えられる」。

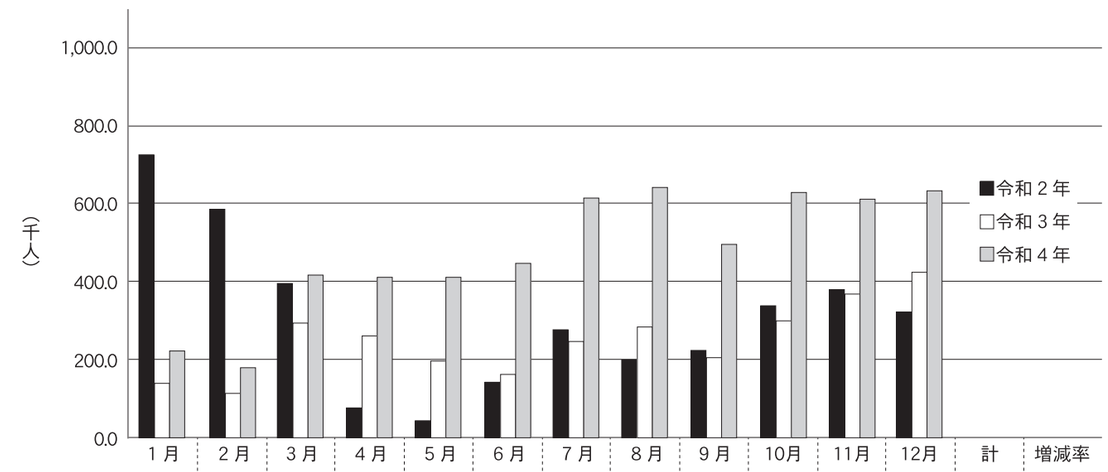
外国客は４万７７００人となり、前年のゼロから皆増となった。

10月以降、水際対策が大幅に緩和されたことを受け、中国を除くアジア近隣諸国（台湾、韓国、香港）からの航空路線で復便が進み、運航が順次再開されたことから、２年ぶりに外国客数が計上された。

令和5年の見通しとして、国内客は「旺盛な旅行需要の取り込みにより引き続き好調に推移することが期待される。旅行支援など需要喚起策による影響が大きいことから、今後の動向を注視していく必要がある」。

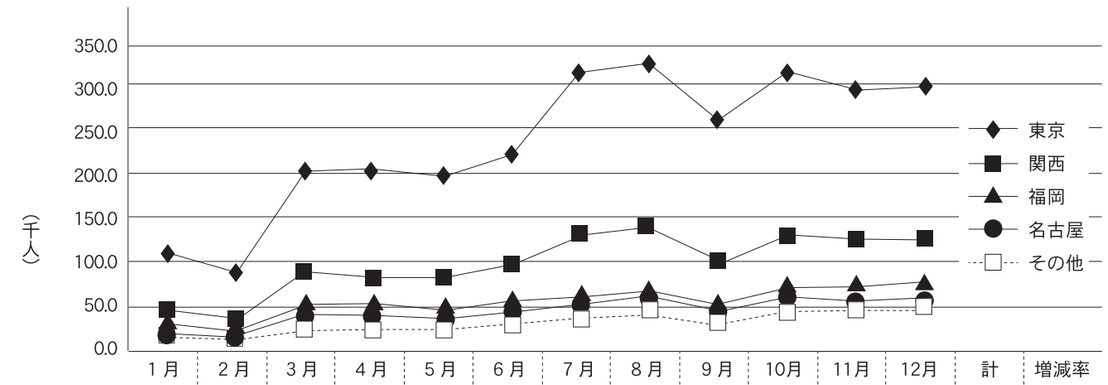
外国客は「複数の航空路線で運航が再開されており、さらなる旅行需要の取り込みが期待される。クルーズ船については、国によるガイドラインが策定されたことから順次再開が期待される」としている。

月別入域観光客数の推移（令和２年～令和４年）



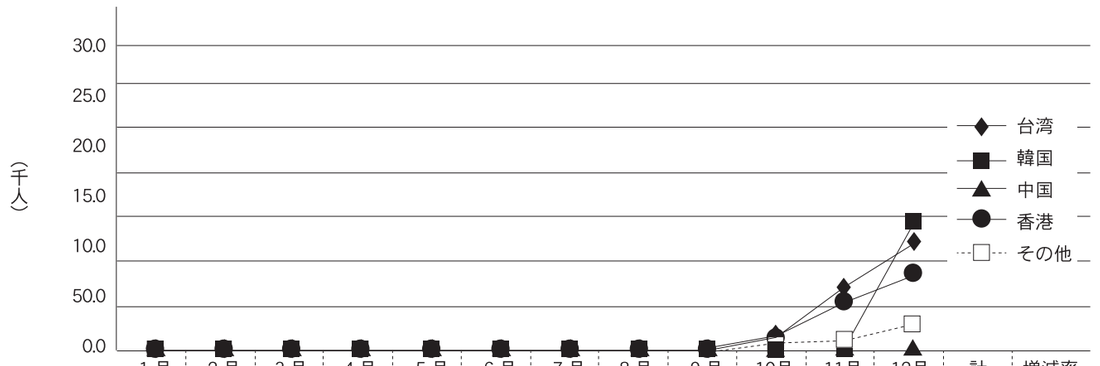
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	増減率
令和２年	727.8	590.9	396.3	77.3	44.0	144.1	277.3	202.8	227.6	341.2	381.1	326.2	3,736.6	3.2%
令和３年	144.0	118.8	299.2	262.6	195.2	162.9	250.4	288.2	204.9	299.0	368.0	423.6	3,016.8	△19.3%
令和４年	224.6	179.2	415.7	409.0	396.8	448.5	607.8	640.8	494.7	630.7	615.0	635.0	5,697.8	88.9%
R４増減数	80.6	60.4	116.5	146.4	201.6	285.6	357.4	352.6	289.8	331.7	247.0	211.4	2,681.0	
R４増減率	+56.0%	+50.8%	+38.9%	+55.8%	+103.3%	+175.3%	+142.7%	+122.3%	+141.4%	+110.9%	+67.1%	+49.9%	+88.9%	

令和４年（暦年）国内客の状況（方面別の月別推移）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	増減率
東京	109.9	92.9	204.0	205.9	199.1	222.5	317.2	327.6	262.1	316.4	297.0	297.8	2,852.4	82.8%
関西	48.0	35.8	91.7	86.2	85.1	98.6	132.8	140.6	103.1	131.8	127.9	124.2	1,205.8	92.5%
福岡	30.4	25.0	54.2	51.8	50.0	55.8	64.3	67.7	54.9	74.6	75.9	75.3	679.9	76.8%
名古屋	19.4	15.7	41.5	38.4	35.7	41.6	57.2	62.2	43.2	59.3	53.3	55.7	523.2	98.7%
その他	16.9	9.8	24.3	26.7	26.9	30.0	36.3	42.6	31.4	45.9	48.8	49.2	388.8	113.5%
計	224.6	179.2	415.7	409.0	396.8	448.5	607.8	640.7	494.7	628.0	602.9	602.2	5,650.1	87.3%
増減数	80.6	60.4	116.5	146.4	201.6	285.6	357.4	352.5	289.8	329.0	234.9	178.6	2,633.3	
増減率	56.0%	50.8%	38.9%	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	110.0%	63.8%	42.2%	87.3%	

令和４年（暦年）外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	増減率
台湾	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	5.9	10.4	17.6	0.0%
韓国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	12.3	12.4	0.0%
中国	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0%
香港	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	5.4	7.5	14.0	0.0%
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	2.4	3.5	0.0%
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	12.1	32.8	47.7	0.0%
減少数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	12.1	32.8	47.7	
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	皆増	0.0%	皆増	皆増	皆増	皆増	

調査データ

前年同月比で増加数、増加率とも過去最大

令和5年1月 沖縄県入域観光客数概況

137％増の53万2200人

今年1月の沖縄県への入域観光客数は53万2200人。前年同月比30万7600人増、率にして137・0％増と、増加数、増加率ともに過去最大となった。ただ、コロナ禍直前の令和2年同月比は19万5600人減、26・9％減にとどまる。

このうち国内客は前年同月比26万2800人増、117・0％増の48万7400人。コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されたこと、航空路線における年末年始期間等の増便、修学旅行が一定程度回復していること、サッカーキャンプが開幕したことなどの影響から前年同月を上回った。

2月については「コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や、全国旅行支援の実施が継続されていること、またプロ野球キャンプ見学などの各種イベントが開催されていることから、さらなる旅行需要の高まりが期待される」。

外国客は4万4800人。前年同月はゼロだった。台北―那覇、香港―那覇、仁川―那覇路線で運航が継続したことなどで前月比では1万2千人増（36・6％増）と好調に推移した。

2月については「台北―那覇、香港―那覇、仁川―那覇路線での運航が継続していることに加えて、台北―石垣路線でチャーター便の運航がなされるなど、引き続き外国客数回復への後押しが期待される」。

主な発地別の概況は次の通り。

【東京】コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援の実施が継続したことに加え、年末年始における旅行需要の取り込みがなされたことなどから、前年同月を上回った。

【台湾】日本における水際対策の緩和を受け、台湾―那覇路線の運航継続による旅行需要の取り込みがなされたことなどから、前月と比べて客数が大幅に増加した。

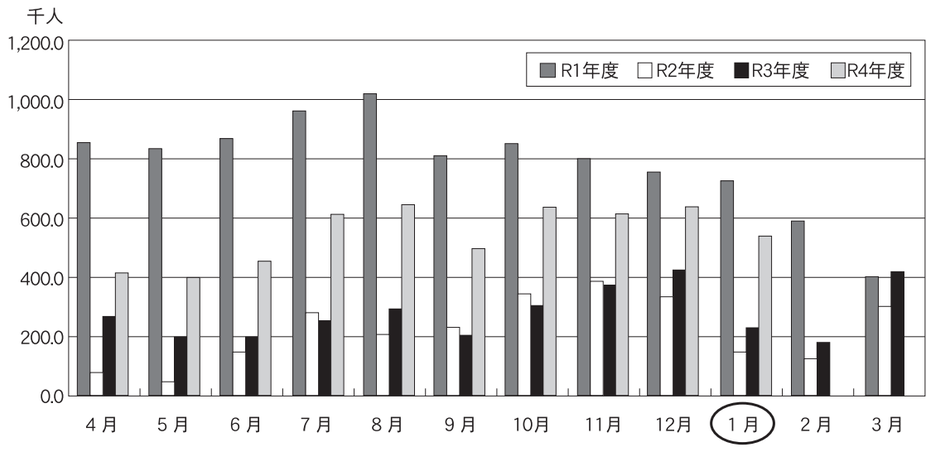
【中国本土】中国におけるゼロコロナ政策が解除されたものの、中国（上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島）―那覇の7路線が全て運休になっていることなどから引き続きゼロとなった。

【香港】日本における水際対策の一部見直しにより、香港―那覇路線での便数が制限されていることなどが影響して、前月と比べて客数が減少した。

入域観光客数（令和３年度との比較）

区分	Ｒ４年度	Ｒ３年度	増減数	増減率	構成比	R1年度(参考)
国内客	487,400 人	224,600人	＋262,800人	＋117.0％	91.6%	534,300人
外国客	44,800人	0人	＋44,800人	皆増	8.4%	193,500人
合計	532,200人	224,600人	＋307,600人	+137.0％	100.0%	727,800人

令和元年度～令和４年度入域観光客数



国内客　地域別入域状況

区分	Ｒ４年度	Ｒ３年度	増減数	増減率	構成比	R1年度(参考)
東京方面	235,700人	109,900人	＋125,800人	＋114.5％	48.4%	259,400人
関西方面	100,100人	48,000人	＋52,100人	＋108.5％	20.5%	104,700人
福岡方面	61,900人	30,400人	＋31,500人	＋103.6％	12.7%	70,600人
名古屋	46,100人	19,400人	＋26,700人	＋137.6％	9.5%	46,500人
その他	43,600人	16,900人	＋26,700人	＋158.0％	8.9%	53,100人
合計	487,400人	224,600人	＋262,800人	＋117.0％	100.0%	534,300人

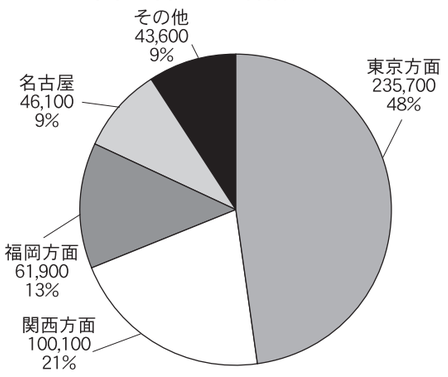
※国内海路客1,500人を含む

外国客　国籍別入域状況

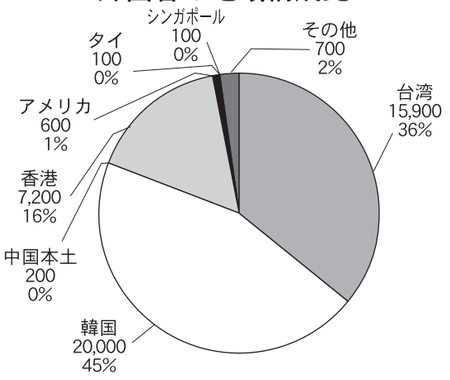
増減数および増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	Ｒ４年度（乗務員等含む）	Ｒ４年度（乗務員等除く）	Ｒ３年度（乗務員等含む）	増減数	増減率	構成比
台湾	15,900人	15,900人	0人	＋15,900人	皆増	35.5%
韓国	20,000人	20,000人	0人	＋20,000人	皆増	44.6%
中国本土	200人	200人	0人	＋200人	皆増	0.4%
香港	7,200人	7,200人	0人	＋7,200人	皆増	16.1%
アメリカ	600人	600人	0人	＋600人	皆増	1.3%
タイ	100人	100人	0人	＋100人	皆増	0.2%
シンガポール	100人	100人	0人	＋100人	皆増	0.2%
その他	700人	700人	0人	＋700人	皆増	1.6%
合計	44,800人	44,800人	0人	＋44,800人	皆増	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の地域構成比



外国客　空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路 観光客数（乗務員等含む）	空路 観光客数（乗務員等除く）	空路 増減率	空路 構成比	海路 観光客数（乗務員等含む）	海路 観光客数（乗務員等除く）	海路 増減率	海路 構成比
台湾	15,900人	15,900人	皆増	35.5%	0人	0人	－	0.0%
韓国	20,000人	20,000人	皆増	44.6%	0人	0人	－	0.0%
中国本土	200人	200人	皆増	0.4%	0人	0人	－	0.0%
香港	7,200人	7,200人	皆増	16.1%	0人	0人	－	0.0%
アメリカ	600人	600人	皆増	1.3%	0人	0人	－	0.0%
タイ	100人	100人	皆増	0.2%	0人	0人	－	0.0%
シンガポール	100人	100人	皆増	0.2%	0人	0人	－	0.0%
その他	700人	700人	皆増	1.6%	0人	0人	－	0.0%
合計	44,800人	44,800人	皆増	100.0%	0人	0人	－	0.0%